

4月29日、30日

燧が岳

メンバー 手塚、他1名

29日(①)連休前半は、至仏山を軽く滑り、山の鼻あたりでやつたり休養するつもりででかけたのに、何と深夜の沼田駅で鳩待峠へのバスはまだ開通していないと知らされる。鳩待峠まで片道3時間の車道歩きなんて現実的じゃない、と大清水からの入山を決めた頃には、大清水行のバスは出てしまっていた、シュラフもなく又ひときわ冷え込みの厳しいこの夜に、沼田駅で一夜を明かさねばならぬとは何たる不運。朝7時過ぎのバスでや、と大清水に向かう。前々日の雪で大清水からずっと雪道だったが、もちろんシールを使えるほどではなく、三平峠までスキーを担いで行く。当然の事ながら登山者も多く、家族連れなどがスニーカーをひっしゃりしにしながらも全く気にせず実に明るい。三平峠からはつかのまの滑りを楽しんで、尾瀬沼のヘリをそのまま進んで長蔵小屋に向かう。沼の雪解けはかなり進んでいて、スキーでない人はシャーベット状の所にしほしほ水没している様子だった。長蔵小屋は、やはり中高年登山者が多い感じで、「私達もこの分だと、10年や15年たっても来られそうね。」と、友達と語り合う。

30日(①) 今日も晴天に恵まれて、長蔵新道をシールで登る。帰路は、御池にヒリたか、左のだけれども、こちらもまだバスが開通していないとの事。又三平峠を越えて延々と帰らねばならぬと思うと心が安まらない。時間の事も考えて、ミノイ千岳のちよと先の火口のヘリまで登って終了とする。それでも静岡から遠路はるばるや、てきた友達は大喜びしていて、記念撮影に余念がないのを冷たく急かして下りにかかる。上部は手あまあながら、すぐに抵抗の大きい新雪に苦労しながら回転する。さらに下部は、ほんとんど平らで、登山者のトレースをレールのようには、て何と

かスキーを滑らせていく。長蔵小屋ではビールで祝杯をあける暇もなく、すぐに三平峠へと向かう。三平峠からゆるやかな尾根をしばらく滑る。その下の急な下りは雪もなくもちろんスキーは担いだけれども、さらに下はゆるやかな雪原となりしづらし滑降。再び雪が切れで、「まだ滑れるかな」とスキーを手に持ったまま歩いていけると一ノ瀬に着いたとき残念。林道の雪は全く消えてしまっていて、今日はジャリ道を大清水に帰る。や、たゞ過ごしたいというもくろみは全くはずれて、とにかくあわただしい山行になってしまった。

